

全國金融統制會第一回通常總會  
別席ニ於ケル賀屋大藏大臣演說

(昭一八四一九 於、東京銀行集會所)

本日全國金融統制會第一回通常總會ノ開催ヲ機トシ金融統制團體關係者各位御參集ノ席ニ於テ、所懷ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ、私ノ最モ欣快トスル所デアリマス。

大東亞戰爭勃發以來僅カニ一年有餘ノ今日、既ニ大東亞ノ地域ヨリ米英ノ勢力ヲ完全ニ驅逐シテ帝國不敗ノ態勢ヲ確立スルニ至リマシタコトハ、一ニ御稜威ノ下忠勇ナル皇軍將士ノ勇戰奮闘ノ賜デアリマシテ、感激ニ堪ヘヌ所デアリマス。茲ニ各位ト共ニ出征將士ノ武勇ヲ久ヲ祈念致シ、併セテ幾多護國ノ英靈ニ對シ謹ンデ敬弔ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

今ヤ敵米英ハ急遽其ノ戦力ノ整備ニ努力シ、銳意反攻作戰ニ出ントシテ居ルノデアリマシテ、戦ハ正ニ決戰的様相ヲ呈シテ參ツテ居リマ



我國ト致シマシテハ飽ク迄モ國ノ總力ヲ舉ゲテ大東亞ノ建設經營ヲ行フト共ニ生産ヲ増強シテ戦力ノ充實ヲ圖リ、此ノ聖戰ヲ最後マテ勝抜カネバリマセン。今日我國百般ノ施策ハ、總テ之ガ爲必要ナル物的戦力ノ増強ト云フ一點ニ集中セラレテ居リ、國ヲ舉ゲテ之ガ達成ニ邁進シテ居ル、デアリマシテ、財政金融ノ運営モ亦只此ノ一點ヲ目指シテ行ハルベキハ當然デアルト申サネバラマ、デアリマス。

政府ハ先般開カレマシタ第八十一回帝國議會ニ昭和十八年度ノ歳入歳出豫算案ヲ提出シ其ノ協贊ヲ經タ、デアリマスガ、右豫算ノ編成ニ當リマシテハ、現下ノ事態ニ顧ミ生産ノ増強ヲ圖ツテ戦力ノ充實ニ努メ、戰爭ノ遂行ニ遺憾ナカラシムルコトヲ以テ主眼ト致シタ、デアリマス。今回成立致シマシタ昭和十八年度一般會計豫算ハ追加豫算ヲ併セマシテ百三十二億七千五百餘萬圓デアリマスガ、假ニ之ニ臨時軍事費追加豫算二百七十億圓ヲ加ヘテ更ニ此ノ内兩會計間ニ於テ重複致シマス分ヲ差引キマスレバ、三百六十億三千五百餘萬圓ト相成ル、デアリ



マヌ。而シテ之カ財源ニ充ツル爲直接税ヲ中心トスル増税ヲ斷行シ、  
又煙草ノ値上げ等ヲ行ツタノデアリマスガ、尙昭和十八年度ニ於ケル  
公債發行豫定額ハ、一般會計及臨時單學費其ノ他ノ各特別會計豫算ノ  
分ヲ台セマスレバ二百十四億二千餘萬圓ニ上ルノデアリマシ。斯クノ  
如ク本年度ノ豫算額及公債發行豫定額ハ何レモ曾テ見ザル巨額ト相成  
ツテ居ルノデアリマスガ、政府ト致シマシテハ完璧ナル財政經濟計畫  
ノ下ニ萬全ノ施策ヲ行ヒ、國民ノ協力ト相俟ツテ此ノ巨額ノ豫算ノ圓  
滑ナル實行及巨額ノ公債ノ完全ナル消化ヲ確保セントスルモノデアリ  
マス。

本年度ノ國民所得ハ大約五百億圓ト推計セラレテ居リマス。而シテ  
此ノ中約百億圓ガ租税及專賣益金等租税ト同様ノ性質ヲ有スル歳入ノ  
形ニ於テ、又約二百十億圓ガ公債ノ形ニ於テ財政所要資金トシテ留保  
セラレネバナラナイノデアリマス。其ノ他生産力擴充資金モ尠ク共六  
十億圓ハ必要デアルト認メラレマスノデ、結局兩者合計約三百七十億



圓・換言スレバ國民所得中ノ約七割五分ガ國家所發資金ノ總額ト相成  
ルノデアリマス。從ツテ國民ノ生活ニ充テ得ル資金ハ昨年等ニ比シテ  
相當壓縮セフレ。約日三丁億圓ニ止ラザルノ得ナイノデアリマス。  
本年度ニ於ケル我國民經濟運営ニ關スル基本的見透シニシテ大体以  
上ノ通リト致シマスナフハ、之ガ實現ヲ確保スル爲ニ我國トシテ如何  
ニ大ナル努力ヲ要スベキカハ敢テ想像ニ難クナイ所デアリマス。併シ乍  
フ此ノ際ニ從來曾テ見ナイ巨額ノ國家資金ヲ必要トシ、之ガ爲ニハ租  
稅等ノ外ニ更ニ二日七丁億圓ノ國民貯蓄ヲ是ガ非テ達成シテ、戰費  
源ニ生産力擴充資金ノ供給ニ遺憾ナカフシメバナフメト云フ點ニコ  
ソ現下沃戦經濟ノ特徴ガアルノデアリマス。戰爭勃發以前ニ行ハレメ  
考ヘ万カフ甲シマスナフハ、例ヘバ引續ク巨額ノ國債ノ發行ハ財政ノ  
基礎ヲ危クシ、國債市價ノ低落ヲ來シ、或ハ又戰後ノ反動トシテ經濟  
界ノ混亂ヲ招ク等ノ虞アリトスル意見セアツタデアリマセウガ、今日テ



ハ最早ヤ左様ナコトハ問題タリ得ナイノデアリマス。與スルニ之類ノ  
コトハ總テ、此ノ戦争ニ勝利ヲ得ルカ、又ハ敗レ去ルカ、只此ノ一事  
ニ懸ツテ居ルノデアリマス。

蓋シ巨額ノ國債ガ發行セラレ之ガ國民貯蓄ニ依ツテ支障ナク消化セ  
ラレテ行クト云フコトハ、採リモ直サズ其ノ資金ニ依ツテ緊要ナル戰  
用資材ノ生産ガ増加シ、戦力ガ増強セラレテ行クコトヲ意味シテ居ル  
ノデアリマス。正ニ我國ガ益々勝利ヲ重ネツ、アル證據デアルト申サ  
ネバナラヌノデアリマス。皇國ノ上ニ勝利ノ榮冠ガ輝ク時、ソレハ大東  
亞經濟圈ノ確立ヲ見ル時デアリマス。偉大ナル國防經濟ノ建設ヲ爲シ  
タル時デアリマス。我經濟力ハ想像ヲ絶スル偉大ナルモノトナリ、財  
政ノ基礎亦磐石ノ重キヲ加フベキハ必至デアリマス。従ツテ巨額ノ國  
債ヲ發行シ得ルコトハ寧ロソレダケ財政力ガ強固安泰トナリツツアル  
コトヲ示スモノト謂フベキデアリマス。國民ノ考フベキハ只戰ニ勝ツ  
コトノミデアリマス。私人的ノ得失ヲ打算シ將來ノ安否ヲ較量スルガ



如キコトハ今日我々ノ考慮ノ對象タリ得ザルモノデアリマス。國家トシテ國民全体ノ運命ノ外ニ個人ノ運命ハナイデアリマス。

現在ノ問題ハ國債發行額ノ多少ニ在ルニ非ズシテ、只此ノ大東亞戰爭ニ勝抜クコトニ在ルデアリマス。我々一億國民ハ、此ノ前古未曾有ノ皇國興隆ノ秋ニ際會シタルヲ無上ノ光榮トシ、各々其ノ職域ニ於テ全力ヲ竭シテ御奉公ノ誠ヲ捧グルノミデアリマス。堂々ノ歩ミヲ以テ一ツ一ツノ困難ヲ乘越エ、大東亞戰爭ノ最後ノ勝利ニ向ツテ邁進スルノミデアリマス。國家ノ所與スル資金如何ニ多クトモソレガ戰ヲ勝抜ク爲必與ナル限リ、是ガ非デモ之ヲ調達セネバナリマセン。日々ノ生活ヲ決戦下ノ事態ニ相應シキモノタラシメテ國民貯蓄ノ増強ニ努メ、租稅負擔ノ増加ヲ忍ビ、我等ノ力デ、我等ノ手デ、之ヲ賄ヒ戰爭ノ遂行ニ遺憾ナカラシムルト云フ固キ決意コソ、現下皇國臣民ノ一人一人ノ心デナクテハナラヌデアリマス。

願ミマスレバ大東亞戰爭勃發以來、我國經濟界ハ其ノ基礎愈々鞏



画ラ加フルト共ニ、戦時下緊要ナル王産、増強ニ迫進シテ居リマスコ  
トハ、衷心欣快ニ存スル所アリマス。就中我國金融界、推移ガ甚ダ  
平穩デアリ、各金融機關カ國民貯蓄、吸收ニ、應償、消化ニ、將又王  
産刀備允資金、供給ニ見ク共、以前ヲ達成シツツアリマスコトハ洵ニ  
心強キ限リデアリマス。御承知、如ク政府ハ大東亞戦争勃發、同時ニ  
非帛金融對策ヲ發表シタ、デアリマスガ、爾來皇軍ノ勇戦ニ依リ我々  
土ガ敵ノ攻撃ヲ受クルガ如キ事態發生致シマセシ爲ニ、現正迄未ダ兵  
ノ實際ノ發動ヲ見ルニ至ツテ居ナイ、デアリマス。併シ乍ラ最近敵ハ  
頻リニ反攻ヲ企テ、今後何時敵機ノ來襲ヲ見ルヤモ圖ラレザル情況デ  
アリマス。從ツテ非帛金融對策、實施ヲ必要トスル事態ガ發生スルモ  
トシテ、十分ノ心用意ガ宜ル、デアリマスカラ、金融機關トシテハ  
兵ノ際遇メテ迅速適切ニ非帛金融對策ヲ實施シテ、準備ノ進全ヲ期ス  
ル必要ガアリマス。

今ヤ大東亞戦争ハ正ニ伏戦ノ段階ニ入り、経済界及金融界ニモ今後



設多ノ新シキ重要問題ノ提起ヲ見ントスル情況ニ在リマス。此ノ際並  
融界トシテ内ニ感々不逞傳ノ決意ヲ固クスルト同時ニ、事感ノ必要  
ニ應ジテハ速カニ新ナル構想ヲ以テ之ニ對處スベキ範圍タル感勢ヲ整  
備スル必要ガアリマス。トハ、敢テ多言ヲ要セザル所デアリマス。  
決裁下經濟並融向議ノ中核ヲ爲スモノハ國民貯蓄ノ増強デアリマス。  
政府ハ昨年春昭和十七年度ノ國民貯蓄増加ノ目標額ヲ二百三十億圓ト  
シ、此ノ目標額ノ達成ニ努力ヲ傾注シテ參ツタノデアリマスガ、功効  
セラレタル志氣ヲ以テスル國民ノ効力ニ依リ、其ノ實績ハ遂ニ目標額  
ヲ優爲スルニ至レルコト既ニ瞭ラカト相成ツテ居ルノデアリマス。而  
シテ先頃政府ニ於テ昭和十八年度ノ目標額ヲ二百七十億圓ト決定シマ  
シタコトハ各位ノ御承知ノ通りデアリマス。而モ其ノ中約二百十億圓  
ハ並融機關及百餘關係ニ於ケル資金収収ニ俟ツベキモノトセラレテ  
居リマス。此ノ二日七十億圓ト云フ目標額ハ、昨年度ノ目標額が既ニ



二百三十億圓ト云フ多額デアリマスノニ、之ニ更ニ四十億圓ヲ増加セ  
ントスルモノデアリマスカラ、斯ル巨大ナル目標額ヲ達成スルト云フ  
コトハ、到底通常ノ努力ヲ以テンテハ期待ン得ラレナイト申サネバナ  
リマセン。

之カ爲先ヅ必要ナコトハ決戦體制ニ即應スル國民生活規準ノ確立テ  
アリマス。國民生活ノ徹底的戰時化デアリマス。國民ノ一人一人ガ愛  
國ノ至誠ヲ以テ、職務ニ在ツテハ澆マサル勤勞ニ依ツテ生産ノ増強ニ  
努メ、豕ニ在ツテハ消費ヲ節約ンテ乏ンキニ堪ヘ、忍苦敢闘ノ生活ニ  
徹スルコトデアリマス。國民ガ一切ノ安逸ト浪費トヲ捨テ去リ、勇躍  
ンテ國運ノ興隆ニ挺身スル時、國民貯蓄ハ自ラ増強セラレルノデアリ  
マス。我々ハ國民貯蓄ガ基礎ナクンテ築キ上げラレルモノテナイコト  
ヲ銘記セネバナリマセン。

政府ハ國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲、先般ノ議會ノ協賛ヲ經テ各種ノ立  
法ヲ行ツタノデアリマス。普通銀行等ヲンテ貯蓄銀行業務又ハ信託



業務經營ヲ認ムルコトト致シマシタノモ其ノ一ツテアリマス。此ノ方  
策ハ金融機關ノ業務分野等ニ歸スル從來ノ固定的考ヘ方ヲ以テスレバ  
相當問題デアリ得ルノデアリマセウガ、政府ニ於テ敢テ之ヲ斷行シマ  
シタ所以ハ、一ニ現下緊要ナル國民貯蓄ノ増強ニ付テ最大ノ效果ヲ舉  
グル爲ニハ、人員及店舖數等ヨリ見テ活動力大ナル普通銀行等ニモ貯  
蓄銀行業務又ハ信託業務ヲ兼營セシメ、之ニ依ツテ大衆的預金及長期  
的資金ノ吸收ニ全力ヲ盡スノ必要ガアルト認メタコトニ依ルノデアリ  
マス。

斯クノ如ク政府ハ今ヤ一段ト重要性ヲ加ヘ來リマシタ國民貯蓄ノ増  
強、資金配分ノ適正化ノ二大要請ノ前ニハ、必スシテ從來ノ考ヘ方ニ  
拘泥スルコトナク、現在ノ金融機構ニ加フベキ改革ヲ加ヘ、以テ金融  
ノ機能ヲ最高度ニ發揮スベク努力シテ居ルノデアリマス。併シ乍ラ政  
府ノ行ハントスル改革ハ決シテ單ニ概念的見地ヨリスル改革ニ非スシ  
テ、能ク迄モ事態ニ即應セル實際的の必要ニ基クモノミテアリマス。



今般日本證券取引所法ヲ制定シテ證券取引所制度ノ全面的改正ヲ施行シ、又農林業關係團體ノ統合ニ伴ヒ市街地信用組合法ヲ制定シマシタコト等モ全テ此ノ趣旨ニ出ヅルモノニ外ナラヌデアリマス。

近來金融界ノ内部ニ於テモ政府ノ此ノ方針ニ即應シ、進ンテ金融機關ノ整備ヲ協力スルノ氣運ノ醸成セラレツツアリマスコトハ私ノ敢モ欣快トスル所デアリマス。御承知ノ如ク最近市中大銀行高ニ數箇ノ合併ガ行ハレタノデアリマスガ、合併セラレマシタ銀行ハ何レモ其ノ歴史最モ古ク、又我國屈指ノ大銀行デアリマス。之等ノ銀行ニ於テハ現下内外ノ情勢ニ顧ミ、一層國策ヘノ協力ニ遺憾ナキヲ期スル爲、多年ノ傳統ニ泥マス動乎自發的ニ合併ヲ決定セラレタモノデアリマシテ、其ノ意識ト勇斷トニ對シ敬意ヲ表スル次第デアリマス。其ノ他ノ銀行、保險會社、無盡會社等ニ付キマシテモ、中央地方ヲ洞シ着々トシテ時局ノ要請ニ即應スル機構ノ整備ガ實現セラレツツアリマス。斯クノ如ク時局下案安ナル金融機構ノ整備強化ガ、關係者ノ自發的協力ニ依リ進



扱ヲ見ツツアリマスコトハ洵ニ心強キ限リデアリマス。

併シ乍ラ金融界カ克ク其ノ使命ヲ達成スルヤ否ヤハ其ノ機軸モサル  
事乍ラ、懸ツテ其ノ運営ノ方法如何ニ在ルト申サネバナラヌノデアリ  
マス。而シテ決戦下金融機關ノ運営ヲ國策ノ線ニ完全ニ即應セシムル  
ト云フコトハ、其ノ運営ノ方法自體ヲ根本的ニ戰時化スルコトニ外ナ  
ラヌノデアリマス。此ノコトハ現在國民ノ生活ガ戰時化セツレネバナ  
ラヌコトニ對應スルモノデアリマシテ、國民ノ一人一人ノ生活ガ戰時  
化セラレ其ノ勤勞ト消費ノ節約トニ依ツテ貯蓄ガ達成セラレテ行ク時、  
之ヲ受入レテ管理運用ノ任ニ當ル金融機關ノ經營ガ、只漫然ト情勢的  
ニ行ハレルト云フコトハ許サレナイコトデアリマス。加之私ハ更ニ進  
ンデ我々金融ノ事ニ懸ル全テノ者ノ生活行動自體ガ戰時化セラレネハ  
ナフヌト考ヘルノデアリマス。我々ノ生活ハ國民貯蓄増強ノ第一線戰  
士トシテ凡ソ國民ノ戰時生活ノ範タルベキモノデナクテハナラヌノデ  
アリマス



各種ノ金融機關ハ夫々其ノ種類ハ異ツテ居リマシテモ、事業ノ運営  
ガ總テ公的の理念ヲ以テ實カレネバナラヌコトハ至テノ金融機關ヲ通ジ  
テ全ク同一デアリマス。本來金融機關ノ事業自體ガ公共的ノモノデア  
ルノハ申ス迄モアリマセンガ、現下ノ時局ハ之ニ加フルニ金融機關ニ  
對シ各種ノ國家的事務ヲ擔當セシムルコトヲ要求ンテ居ルデアリマ  
ス。最近ノ例ヲ擧ゲマスナラバ、社債ノ登録、國債及戰時債券ノ買上、  
各種ノ戰爭保險ノ引受、國稅ノ收納、納稅準備金等ニ關スル事務ノ  
如キ之デアリマシテ、政府ハ之等ノ事務ヲ委ヌルニ際シ特殊金融機關  
タルト台トヲ問ハズ、各種ノ機關ヲ其ノ何スルト安スルトニ從ツテ選  
デ居ルデアリマス。斯クテ今日至テノ金融機關ハ益々公的の機關化シ  
ツツアルデアリマシテ、各處ハ金融機關ノ任務自體ガ如何ノ如ク戰  
時ノ安否ニ應ジテ變更ヲ見ツツアルト云フ事實ヲ俟ク心ニ銘セラレ度  
イノデアリマス。

由來金融事業ハ堅固ナル古キ傳統ヲ有シ、之ニ依ツテ克ク世人ノ信



頼ヲ博シ、事業ノ發展ヲ見ルニ至ツタデアリマシテ、此ノ氣風ハ勿  
論十分實ブベキモノト信ジマスガ、然シ此ノコトハ決シテ金融事業ノ  
運営カ何時迄モ從來通りノ方法ニ依リ繼續セラレテ宜シト云フコト  
デハナイト考ヘマス。又戦争勃發以來金融界ハ各匠ノ努力ニ依リ全ク  
平靜デアリマシテ、曠古ノ大戦下トハ思ヘヌ程順調ナル推移ヲ迪ツテ  
去ルノデアリマスガ、之ガ爲外部ヨリ見レバ恰モ金融界ガ徒ラニ保守的  
デアツテ進歩ナキガ如ク見ラレ勝テアリ、又此ノコトハ動モスレバ  
金融ノ事ニ秀ル者ノ心ニ地ミテ興ヘ、思ハズモ舊套ヲ墨守スルノ弊ニ  
陥リ勝チデアリマシテ、此ノ點ハ我々ガ常時深ク戒心ヲ要スル所デア  
リマス。改革セラルベキ點ハ斷乎トシテ改革シ、常ニ此ノ決戦下ノ事  
態ニ適應スル態勢ヲ養ヘ以テ國策ニ協力スルノデアケレバ、當ニ所謂  
舊體制ノ勝ヲ完カレサルノミカク其ノ使命ヲ達成スルコトヲ能ハサ  
ルニ至ルモノト信ズルノデアリマス。此ノ意味ニ於テ金融機關トシテ  
ハ、例ヘバ現下ノ人手不足等ニ對シテモ業務上ノ工夫ト改善トニ依テ



之ヲ克服スルト云フ努力カ必安デアリマス。通般來全國金融統制會ヲ  
中心トシテ苦心研究ヲ重フレマシタ結果、日本銀行具ノ他全國銀行  
ノ協同ニ依リ内國爲管策中決済ノ制度ヲ創設セラル、連ビトナリマシ  
タコトハ、時局下洵ニ適切ナル願策ト申スベキデアリマシテ、政府ト  
シテモ之ニ對シ援助ヲ惜マセノデアリマス。

金融統制團體ハ御承知ノ如ク昨年五月日本銀行制度ノ全面的改正ト  
時ヲ同シウシテ設立セフレ。日本銀行ト唇齒輔車ノ關係ニ立テ相並ン  
テ金融統制ノ實施ノ任ニ當ルベキ使命ヲ以テ發足シタノデアリマス。

爾來一ケ年ヲ経過シタニ過ギマセメレドモ、私ハ此ノ一年間ノ實績  
ニ徴シマシテ、統制團體設立ノ目的ハ孰ニ着々トシテ到達セフレツツア  
ルモノト信スルモノデアリマス。創立早々多事ナル時期ニ際シ、關係  
者各位ノ拂ハレタル御努力ニ對シマシテハ深く敬意ヲ表スル次第デア  
リマス。



申ス迄モナク金融統制團體ハ金融機關ノ自律ニ若ク一體的ノ組織デアリマス。金融機關ノ意思ガ其處ニ結集セラレ、其ノ機能發揮ガ統制團體ノ活動ヲ通ジテ十分ニ實現セラレルト云フ状態コソ理想トスル所デアリマス。此ノ理想ノ境地ハ、金融機關ノ經營者ガ統制團體ニ對シ十分ナル信頼感ヲ持ツニ至リタル時始メテ實現セラレルノデアリマシテ、此ノ信頼感ナクシテハ統制團體ハ金融界ヨリ遊離シ、單ニ其ノ外ニ立ツテ之ニ命行スニ丈ケ、機關ト化スルノデアリマス。統制團體トシテハ創立日尙淺クシテ克ク斯クノ如キ信頼感ヲ克ク得ルコトハ相當ノ困難ヲ伴フコトデモアリマセウガ、之ハ金融統制團體存立ノ根本問題デアリマス。之ガ實現ノ爲統制團體ノ理事者トシテ常ニ留意スベキコトハ、第一ニ金融情勢ノ推移ヲ迅速適確ニ把握スルニ努ムルコトデアリマス。第二ハ、指導統制ノ實行ニ當ツテハ之ニ十分ナル弾力性ヲ付與シ、固定劃一ニ流レズ、機ニ應ジ適切ナル判斷ヲ行フコトニ依ツテ金融機關ノ創意ト活力トヲ最高度ニ發揮セシムルコトデアリマス。



斯クノ如キ指導統制カ眞行セラル、時、兵處ニ期セスンテ、統制團體  
ニ對スル信頼感ハ沛上ルノデアリマス。

又金融機關ノ側ニ於テモ、個々ノ立場ヲ離レ眞ニ統制團體ノ一員ト  
成リ切テ兵ノ指導統制ニ服シ、統制團體ノ發達ヲ援クルコトガ必要デ  
アリマス。此ノコトハ金融機關ノ國策的使節ト統制團體ノ必要件トニ  
思フ致シマスアラバ、蓋シ當然ノコトデアリマシテ、此ノ點ニ付テハ  
我ニ有ナル金融機關ニ於テ他ニ卒元ンテ兵ノ範ヲ示サレ度イノデア  
リマス。

政府ハ統制團體設立ノ最初表明シマシタ如ク、幾々重要性ヲ増大シ  
ツ、アル金融統制ノ眞行ニ付テハ、統制團體ニ依ル統制方式ニ依リ對  
應セントスルモノデアリマシテ、實ニ金融機關ノ資金ノ収收及運用ニ  
關スル指導統制ニ付テハ、兵ノ基本的不満ハ全國金融統制會參畫ノ下  
ニ政府ニ於テ決定スルノデアリマスガ、兵ノ眞行ニ付テハ主トシテ之  
ヲ統制團體ニ委ヌル方針デアリマス。從ツテ金融統制團體ノ指導者々



ル各位ハ只單ニ政府ノ具体的指示ヲ俟ツテ始メテ動クト云フノデナク、  
常ニ國策ノ勸助、政府ノ方針ヲ察シテ自發的ニ適切ナル方策ヲ實施ス  
ルニ努メラレ度イノデアリマシテ、斯クテコソ統制團體ガ自律團體タ  
ルノ眞面目ハ發揮セラレルノデアリマス。又各位力常時各取ノ金融問  
題ニ關シテ研究ヲ盡サレ、進ンデ政府ニ對シ建議セララルコトハ、政  
府トシテ希望スル所デアリマス。例ハ巴金利ト租税トノ調整ヲ圖ルガ  
如キコトハ今後ニ於ケル國民貯蓄ノ増進、金融機關ノ經營等ニ關聯シ  
テ極メテ重要ナル事項ト認めラレルノデアリマスガ、此ノ種ノ事項ノ  
如キハ各位ニ於テ實際的見地ヨリ十分研究ヲ積マレ度キ事項デアリマ  
ス。

決戦下經濟界ノ情勢ノ變化ニ伴ヒ、金融界ニハ續々トシテ新シキ問  
題ガ謀セラレツツアリマス。金融統制團體ハ政府ト協力シテ遂カニ之  
等問題ノ解決ノ方策ヲ圖立シ、之ニ同ツテ傘下機關ヲ職員セネバナラ  
メノデアリマス。特ニ今後或時生産ノ増強ヲ圖ルガ爲ニハ、新ニ生産  
設備ヲ擴充スルノミナラス、既存ノ設備ニ付テモ之ヲ整頓ナル方面ニ  
専決活用スルノ必要ヲ三スルノデアリマシテ、斯ル場合各該債務ノ整



連、撤、レ、フ、レ、ム、ル、等、資、金、ノ、吸、收、等、金、融、上、種、々、ナ、ル、問、題、ノ、發、生、カ、球、  
想、マ、フ、レ、ル、ノ、テ、ア、リ、マ、ス、。而、シ、テ、且、ノ、機、ナ、湯、台、ニ、金、融、機、關、カ、天、々、ノ、判、  
斷、ニ、基、キ、個、別、的、ニ、行、動、ス、ル、コ、ト、ト、相、成、リ、マ、ス、レ、バ、。一、面、ニ、於、テ、浮、動、資、  
金、ノ、吸、收、及、緊、要、ナ、ル、産、業、資、金、ノ、供、給、ニ、遺、憾、ナ、キ、フ、期、シ、待、サ、ル、ノ、ミ、ナ、フ、  
ズ、。整、理、縮、少、フ、餘、儀、ナ、ク、マ、フ、ル、。企、業、等、ノ、万、面、ニ、於、テ、摩、擦、混、亂、ヲ、生、ス、  
ル、虞、ナ、シ、ト、シ、ナ、イ、ノ、テ、ア、リ、マ、シ、テ、。且、處、ニ、金、融、統、制、團、體、ノ、適、切、ナ、ル、指、  
導、統、制、ニ、依、ル、協、力、ヲ、納、對、ニ、必、要、テ、ア、ル、ト、認、メ、フ、レ、ル、ノ、テ、ア、リ、マ、ス、。各、  
位、ハ、産、業、界、ト、ノ、連、絡、ヲ、愈、々、緊、密、ニ、シ、。適、切、ナ、ル、金、融、措、直、ニ、依、ツ、テ、戰、力、  
ノ、増、強、竝、ニ、經、濟、秩、序、ノ、維、持、ニ、貢、獻、セ、フ、レ、度、イ、ノ、テ、ア、リ、マ、ス、。、  
之、フ、安、ス、ル、ニ、全、國、金、融、統、制、會、ヲ、首、ノ、各、金、融、統、制、團、體、ニ、於、テ、ハ、。創、立、  
以、來、一、ヶ、年、ノ、間、ニ、於、テ、既、ニ、幾、多、ノ、重、要、ナ、ル、事、業、ヲ、開、始、セ、フ、レ、タ、ノ、テ、ア、  
リ、マ、ス、カ、。之、等、ノ、事、業、ハ、今、從、愈、々、周、密、ニ、之、フ、旨、願、セ、フ、レ、不、バ、ナ、フ、メ、ノ、  
テ、ア、リ、マ、ス、。符、ニ、金、融、機、關、ノ、資、金、ノ、運、用、ニ、關、ス、ル、指、導、統、制、實、行、セ、フ、レ、  
之、ニ、基、キ、金、融、機、關、ノ、公、債、且、ノ、他、ノ、有、價、證、券、ノ、消、化、竝、ニ、生、産、力、擴、充、資、金、



供給が計画的ニ實行セラレツツアリマスコトハ、洵ニ喜ブベキコト  
デアリマスガ、此、際更ニ一段ト努力ヲ要スルコトハ、右ノ指導統制  
ニ十分ナル弾力性ヲ保持セシメ、克ク情勢ノ變化ニ即應セシムルト同時  
ニ、各金融機關ノ經營ノ情況其ノ他ノ實情ニ適合セシメルコトデア  
ト考ヘマス。尙又前ニ申述べマシタ新シキ問題其ノ他今後ニ殘サレタ  
問題ニ付テハ、速カニ適切ナル方策ノ實行ガ期待セラレルデアリマ  
シテ、之等ノ點ニ付テハ各位ノ一段ノ努力ヲ切望スルモ、デアリマス  
以上金融統制團體ニ對シ要望致シ度キ若干ノ事項ニ付申述べタ次第  
デアリマスガ、今ヤ時局ハ國民貯蓄ノ吸收ニ、戰費ノ調達ニ、將又生  
産力擴充資金ノ供給ニ、金融機關ノ一體的活動ニ依ル綜合的機能ノ發  
揮ト國家協力トヲ最高度ニ要請シツツアルデアリマス。而シテ金融  
機關ヲシテ適切ナル指導統制ニ依リ此ノ要請ニ即應セシムベキ統制團  
體ノ任務ハ、愈々重大ト申すネバナラヌデアリマス。既往一ケ年ハ



金融機関の設立セラレ請ハバ兵ノ事業ノ軌道ヲ敷設シタル年デアリ  
マス。來ルベキ年コソハソノ上ニ轟々ト列車ヲ走ラスベキ年デナクテ  
ハナリマセン。

皇國ノ隆喬ト東亞ノ興盛トヲ期ケタル大東亞戰爭ヲ戦後迄勝抜キ、  
建國二千六百有餘年皇國小敗ノ歴史ニ更ニ輝カンキ一時代ヲ追加スル  
コトハ、現代皇國臣民ニ課セラレタル光榮アル任務デアリマス。各位  
ハ經濟界ニ於テ敢モ重安ナル使命ヲ有スル金融機関の關係者トシ  
テ、兵ノ任務ノ重ナルヲ想ヒ、悉々兵ノ職責ノ遂行ニ挺身セラレン  
コトヲ切望シテ已マヌ次第デアリマス。















